



Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ポア タールジ! : こんにちは!)

第15回目 10月23日(土)~10月29日(金)までのレポート

10月23日(土) マリンガからクリチバへのバス移動

今日は、1ヶ月半お世話になったマリンガからクリチバに長距離バスで移動する日です。マリンガでお世話になった植田さんは、用事があり最後のお別れができませんでした。ということは、ホテルのチェックアウトからバスへの乗り込みまで、全て自分で行わなければならないということで、一抹の不安がありました。



数語のポルトガル語で、チェックアウト、飲み物や電話料金を除いた領収書（市へ提出用）の作成依頼、タクシーを呼ぶことまで、無事終えることができました。

マリンガのバスターミナルはさすがに大きく（左写真）、乗り場が分かるかと思いましたが、荷物預け、バスへの乗り込みも問題なく行うことができました。以前、イグアスからバスでマリンガに帰ってきたことがあったので、バス乗車は初めてではないのですが、今回は自分一人であったという違いがありました。

バスが走り始めしばらくすると、町並みは消え、見渡す限りの大平原となります（右写真）。今日



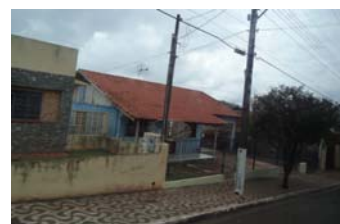
はあいにくの曇り空だったのでくっきりはっきりと地平線が見えるという状態ではありませ



んでしたが、それでも、見渡す限りの平原にはブラジルの大きさを感じました。途中で、ブラジルで初めて鉄道を見ました（左写真）。昔は、人も運んでいたということですが、今は貨物用でしか

動いていないという鉄道です。その分、長距離バスや自動車による移動が主となり、各地を結ぶ道路（高速道路）はかなり整備されています。ただ、日本の現状を知っている私には、鉄道をもっと普及させれば人も物ももっと流通できるのではないかと思います。

今回バスでの移動にしたのは、ブラジル内の地方も見てきたかったからです（飛行機で行った方が遙かに楽）。地方の町を通るたびに、右写真のように、貧しい家々の様子を見ることができました。私は、比較的ブラジルの都会を中心に移動しているので、ブラジルの凄さや発展を多く見てきました



が、それはごく一部の都会に限られたことで、地方ではまだまだ貧しい生活を行っていると感じました。



途中で、サービスエリアに寄りました（左写真）。日本のそれと同じように、中には売店やレストラン・トイレがあり、適度な休憩を取れるようになっています。ただ、日本ほど人が多くないのは、まだまだ移動する人が多くないということでしょうか。

緊張の午前中とはうってかわって、バス内ではゆったり過ごし、約8時間のバスの旅を終え、無事クリチバに着きました。

10月26日(火) DET(教育と職業の部署=専門学校担当)



クリチバ後半での仕事には、州教育局内で情報交換していない部署を訪問するというのがあります。今日は、DET(教育と職業の部署=専門学校担当)を訪問しました。部長のサンドラさん(左写真右)と部長代理のアンドレアさん(左写真中)が説明してくださいました。この部署は、日本でいう専門学科の教育について担当している部署です。この部署

は 2003 年、今の政権になってから作られ、当時はパラナ州内に 18 校しかなかった専門学校が、2010 年には 339 校 96000 人の生徒が学んでいるそうです。それでも、パラナ州内には 2000 校以上の州立学校があるので、全体の約 1.5 割ということになります。ブラジルでは高校までが義務教育ですが、高校へ行く生徒の中には、大学へ進学できない生徒も多くいます。彼らにより有意義な高校生活を送らせるため、あるいは社会に出て直ぐに役立つ社会人を育てるためにも、このような専門学校や専門学科は大変価値があるといえます。そう考えると、1.5 割というのが、ブラジルの大学進学率の関係から適当な数字であるかどうかは分かりませんが、まだまだ少ないようにも思います。

開設されているコースとしては、①環境、健康、安全、②教育サポート、③工業系(プロセス、コントロール)、④経営ビジネス、⑤ホテル、レジャー、⑥情報処理、⑦インフラ関係、⑧自衛隊、⑨食料、⑩文化、デザイン、⑪工業系(生産)、⑫自然・農業の 12 のコースがあるそうです。マリンガで、化学の専門コースがある学校を訪問しましたが、それも、③工業系(プロセス、コントロール)に入るそうです。

修業年限は、通常の高校は 3 年間ですが、専門学科のコースは 4 年間です。4 年間に、通常の高校生が学ぶ内容と専門的な学習内容を織り交ぜ、徐々に専門的学習を増やしていきます。また、専門コースの中には、通常の高校を卒業した生徒のためのコースもあり、これは、修業年限 1～2 年だそうです。これも日本と似たシステムだと思います。

このような専門的な学習を行うコースは、パラナだけでなくブラジル全土でも取り組まれてはいるもののパラナ州が一番進んでいて、さらに、他の州では教育局ではない他の局がこの施策を進めている州もあり、取り組み方は州によって様々だそうです。ブラジルらしいです。いずれにしても、ブラジルのこれからの発展や高校生の学習意欲を考えると大変大切なコースだと思うので、今後の充実が望まれるところです。ただ、この部署の部長さんも、政権が変わった後は、前に勤めていたロンドリーナの大学に戻るそうです。今後の、この施策の進展も心配になってきます。

勤務を早く終え、クリチバの連邦警察へ行き、私の身分証明書を発行してもらいました。マリンガからクリチバのホテルに戻ってきた時、発行準備ができた知らせが届いていたからです(これまでは、仮の身分証明書でした)。ブラジルはすべてが身分証明書の国。長距離バスも飛行機も選挙も身分証明書なしでは、なにもできない国なのです。



10月27日(水) FAE大学での講義と BOM JESUS 学校



今日は、シンチアさんが、週に1回講義を担当している大学で、私が代わって講義をさせてもらう日です。この私立大学は、BOM JESUS という幼稚園から高校までの経営も行って、大学の敷地が BOM JESUS 校の敷地にもなっています。この学校名は、私もパラナ州に来てから何度か見るくらい大変有名で、28校経営しているそうです。

講義の前に、少し校内を見させてもらいました。これまで、州立や私立の学校ばかり見てきた私には、目が点になるくらい立派な学校でした。上写真を見て分かるように、敷地内には、これまでの学校にはなかったような芝生が敷き詰められ、また、写真の建物は、温水プールです。これまでの学校には、プールすらなかったのに、ここには、温水プールです。この格差にはびっくりです。また、生徒の出席管理と防犯対策のため、身分証明書をかざした時に証明された人しか通過できない仕組みにな



っている入り口 (右写真)。これまでになく明らかな教室とその内部は綺麗で、子どもの存在を感じさせる掲示物がありました。まさしく、教室だなと感じさせる雰囲気でした。これまで訪問した学校では、教室を見てもこのような感覚にはなりませんが、初めて、子どもの居場所としてふさわしい空間だと思いました (左写真)。



授業料を聞いたところ、小学部ぐらいで、600 レアル強 (日本円で3万円強) だそうで、さすがに高いなと思いました。子ども達は自家用車で送り迎え、車を見ても、高級車ばかりでした。お金がある家庭の子しか通えないなと思いました。

さて、私の講義です。いつもは、日本の教育についての説明をパワーポイントでし、その後、ビデオを見るだけで終わるのですが、今日は、日本で行われている特別なプロジェクトの授業について話して欲しいという依頼があったので、4年生の社会科の実践について紹介しました (井上主事資料提供です)。右



写真を見ても、大変興味深く話を聞いてくれました。私の話の後の質問も、かなり長く続き、質問だけで50分ぐらい時間をかけることになりました。



全てが終わった後、生徒達の発案で用意された軽食で軽い茶話会を催してくれ、最後に、全員で、写真も撮りました。若い女性ばかり24人。とても、仲が良さそうで明るい青年達でした。

未来の先生に、日本の教育を少しでも分かってもらい、良かったと思います。おまけに、講義後、教育学部長の先生と話をした際に、BOM JESUS 校訪問の許可も頂き、私学を訪問する機会も得ることができました。



10月29日(金) GPS(財務企画部署)訪問



昨日は、訪問するべき所から急きょキャンセルの連絡が入ったので、報告書はありませんでした。

今日の訪問前に、控え室では、誕生日を迎えた人の簡単な誕生会を行いました。皆さんでケーキやお菓子・飲み物を用意し、部屋の人でお祝いをするのです。はじめに、室長がお祈りの言葉を捧げ、その後、全員で誕生日の歌を歌い、いろいろそく消し(左写真)を行い、会食しました。自分たちは、残念ながら他の部屋に行かなくてはならなかったもので、会食前に移動しました。とても、和やかな雰囲気が良いなと思いました。ブラジルらしいところでした。

移動した部屋に、私たちの担当のファチマ先生がいらっしゃったので、少し話をしました。ファチマ先生とは、日本への一時帰国の際にも、再度のクリチバ出勤の際にも会うことができなかったので、久しぶりの再会でした。私の腰のことや自分の体調不良のこと、政権交代による様々な問題などについて話をしました。ファチマ先生は、政権交代により退職するそうです。ここにも、政権交代により大きな影響を受ける人がいました。

今日の訪問は、GPS(財務企画部署)です。州教育局の財政を一手に握っている部署です。州教育局での主な収支は次のようです。(1リアル=約50円)



(収入) 州から	基礎教育費として	24億	リアル
	州の特別費として	7億 1000	リアル
国から	(人件費、食費以外の) 補助	2億 6000	万リアル
	国との連携関係	2億 2000	万リアル
	州の他機関との連携関係	73	万リアル

以上計、約36億リアルが、大まかな収入です。このうちの州からの31億1000万円は、州の税金の25%に相当するようで、かなりのお金が教育費として、計上されています。

(支出) 人件費	26億リアル
新規建設・増築・機材費	2億 2000 万リアル
他	6億 8000 万リアル

人件費の支出が大部分を占めていることが分かります。この点を詳しく聞くと、なんと、州教育局には約13万人の職員(教員10万4200人+その他の仕事の人)が勤めているそうです。日本に比べ、この職員数がかかなり多いこと、さらに、人件費を全て州で負担している現状を考える時、税金の25%を教育費に計上しているとはいえ、これでは、ブラジル教育で今後必要と思われる学校施設の充実や一人一人の教員給与の増加は、かなり難しいように思いました。単純には、人員を減らすことが考えられますが、そこには、ブラジル教育の難しさがあり、簡単には人員を減らすということができないようです。また、国との関わりも問題になってくるように思います。